

1 3 循環資源の輸出事例

日本からの循環資源の輸出事例としては、モーターや鉄くず等に関する事例が挙げられる。産業廃棄物処理業者であるA社では、事業系のOA機器を引き取り、解体した後、モーターやファンなどを海外に輸出している（事例1）。また、B社では、月間5万トンのスクラップを中国の解体業者に売却している（事例2）。いずれの業者も、日本国内で適正に解体・分別した上で、資源を海外へ輸出している。

事例1 OA機器由来のモーターやファンの輸出

- ・ 産業廃棄物処理業であるA社のOA機器リサイクル工場では、「廃棄」の赤文字が貼られたデスクトップ型パソコンが山積みされている。
- ・ 汚れているが、まだ使えそうなものが大半である。故障ではなく、業務用パソコンの買い替えに伴い廃棄されたものが多い。
- ・ 分解は全て手作業で行われ、空気圧ネジ回しでネジを外し、カバーの樹脂や鉄枠、プリント板などを丁寧に分別する。一台の処理時間は5分から10分程度である。
- ・ 分解した鉄やアルミ、ステンレス、ガラス、銅は各素材メーカーに引き渡す。樹脂もできる限りプラスチック再生業者へ引き渡す。
- ・ モーターやファンなどは海外へ輸出する。
- ・ 「手間をかけて分別すれば資源としての付加価値も高まり、再資源化率もアップする」とのこと。
- ・ 同社は1999年8月から廃棄パソコンの処理を手がけ、2000年11月時点で月間約150トンがリース会社や企業から持ち込まれている。

出所：中日新聞 2000年 11月20日

事例2 鉄くず等の輸出

- ・ B社は、全国15ヶ所の集荷拠点から、月間5万トンのスクラップを「シッパー」として、中国現地の解体業者5社に直接販売している。
- ・ 取り扱い品は、鉄くず（約35,000t）、雑品（約11,000t）、中古鋼材、伸鉄材などである。
- ・ 対中輸出も国内売却も同等に、適正価格と品質管理を基本理念としている。

出所：日刊 市況通信 2004年 3月31日